

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1475100119
法人名	株式会社アイ・ディ・エス
事業所名	第2バナナ園
訪問調査日	2015年12月8日
評価確定日	2016年3月24日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

**○項目番号について**  
 外部評価は20項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [次ステップに向けて期待したい内容]  
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 27 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475100119	事業の開始年月日	平成12年4月1日
		指定年月日	平成12年4月1日
法人名	株式会社 アイ・ディ・エス		
事業所名	第2バナナ園		
所在地	( 〒212-0054 ) 川崎市幸区小倉4-6-12		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員 名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 名 宿泊定員 名 定員計 9名 ユニット数 1ユニット	
自己評価作成日	平成27年11月25日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の安全安心できる生活確保はもとより、ご家族様・地域近隣住民様等との関わりを大切にしています。今後は更に交流を深めて職員全員のスクラムを強固にして入居者様から沢山の笑顔を得る様な支援を心掛けていきます。第2バナナ園は社是である「明るく楽しく自由に」を基本にし、全員参加で決めた今年の目標「明るく楽しく開かれた第2バナナ園」で取り組んでいます。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成27年12月8日	評価機関 評価決定日	平成28年3月24日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営は、株式会社アイ・ディ・エスです。この法人は、社会福祉法人ばなな会と共に、バナナ園グループを構成しています。バナナ園グループは、川崎市のグループホームの草分けとして最初の事業所を平成10年に開設以来、現在は、9ホームを運営しています。そして、平成28年4月に横浜市にグループホーム横浜山手を開設します。このホームは、JR川崎駅からバスで12、3分のところに位置し、商業地と住宅地が混在した地域にあります。

②法人の理念に基づいて職員の提案で作成したホームの目標は「明るく楽しく開かれた第2バナナ園」です。ご利用者から沢山の笑顔を得る「開かれた第2バナナ園」になるための取り組みが職員全員で行われています。隣のマンション、地域の商店街、コンビニなど地域の人と日々の生活の中で、そして、地域の行事・ホームの行事を通して交流が行われています。管理者は、利用者に快適な生活が届けられるようにケアすることを考えています。そのために、ケアのコツをメモする個人ノートを始めました。レビー小体認知症の方、妄想、異物を食べる、他人の部屋に入るなど不安定な行動があります。個人ノートの活用により、睡眠時間と不安定行動の関係がわかりケアに役立っています。

③職員の教育は、法人研修として新人研修(1日)、非常勤研修(年2回)、社員研修(月1回)があります。ホームでは、毎月の職員会議、毎日の申し送り時に学ぶ機会を持ちます。新人研修は、人事、服務規程、倫理・接遇・心構えなどについての話があります。現従業員は、法人研修、ホーム内研修で法令遵守、認知症、身体拘束、緊急時対応、終末期対応、感染症、薬、記録の取り方などの実務の知識・技術の向上を図る研修が行われています。法人として、職員の介護知識・技術習熟度を確保するために「歩みの記録」シートがあり、各ホームで習熟度の確認をしています。このシートは、職員の発案によって各ホームの職員が集まり力を合わせて創ったものです。内容は、入社時の抱負から入社1週間後、1か月後、3か月後、半年後、1年後、3年後までの介護職員として備えるべき事項を確認していくものです。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームホーム第2バナナ園
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

1. 48E+09

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人や当事業所独自の理念・モットーにて、地域に根ざした生活を心掛け玄関に理念を掲示しています。日々朝夕の業務申し送りや各種会議で意見交換交流を図り、あるべき姿と現状のギャップを確認して入居者様等にとってより良い生活の実現を目指して支援業務を実践しています。	法人の理念に基づいて職員の提案で作成したホームの目標は「明るく楽しく開かれた第2バナナ園」です。ご利用者から沢山の笑顔を頂ける「開かれた第2バナナ園」になるための取り組みが職員全員で行われています。隣のマンション、地域の商店街、コンビニなど地域の人と日々の生活の中で、そして、地域の行事・ホームの行事を通して交流が行われています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し情報交流、行事への参加交流と（地域と施設）を実践しています。回覧板回し、近隣商店街や神社、保育園等への散歩での住民の皆様と交流、また弊社の月例バナナニュースなどの配布やポステイング等を行っています。地域の認知を上げています。職員は地域の方に挨拶を励行しています。	町内会に加入し、地域の行事に参加している他、ホームの行事案内やバナナニュースなどを地域の回覧板に入れさせて頂き、ホームの行事参加を呼び掛けています。ホームの敬老会には地域の方もお招きし、ボランティアのバンド演奏と一緒に楽しんでいます。また、中学校体験学習の受け入れや散歩時に、近隣の保育園や、商店街や神社等で住民の方々と一緒に挨拶を交わし、交流を図っています。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ここ小倉地区に施設移転して2年8カ月経って地域認知度も深まりつつあります。よって2カ月に1回の運営推進会議を開催して、ご家族様や地域の有識者様、近隣の商店主や地域包括支援センター等の方々のご支援を賜り、当施設の情報発信も併せて取り組んでいます。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者が安定してきおり、人数も増加中です。日々の現状報告を必要に応じて情報交流をさせて頂いています。これにより、多くのご意見・ご助言等頂き、サービスへの振り返り、気付き、活性化への調味料にさせて頂いています。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、町内会長、地域包括支援センター、ご家族、職員の参加で行い、事業所の現状報告や今後の方針等について話し合い、意見交換を行っています。参加者からの「写真を見せてほしい、事故報告は正直で良い」などの意見ももらっています。出た意見は、サービスの向上に活かすよう反映に努めています。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者を施設窓口と位置付けし、地域包括支援センターで定期的開催される交流会に参加し行政との情報交換に努めています。又、生活保護の入居者様が半数で区役所の保護担当者様とはご来園頂いたり通信機器等での情報提供を密にと活動しています。	管理者を施設窓口として位置付けし、地域包括支援センターで定期的開催されている交流会に参加し、行政との情報交換に努めています。また、生活保護受給者の受け入れも行っており、区役所の保護担当者とは事業所に直接来所頂いたり、必要に応じて電話連絡を行ない、密に連携を図っています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に拘束関連の規程資料を開示しています。この身体拘束ゼロを前提に入居者様の安全安心の確保に向けてOJTや日々の話し合いで取り組んでいます。又、安全確保やセキュリティ上、玄関ドアは施錠状態に夏季工事しましたが極力開放感を創造する環境作りに努めています。	身体拘束をしないケアについては、新任研修、法人研修、事業所内研修と勉強の機会を多く設けている他、拘束関連の規程資料を開示して全職員へ周知しています。身体拘束を行わないケアの中で、利用者の安全かつ安心して過ごせるサービス提供が出来るよう、OJTや日々の話し合い等で実践に繋がっています。言葉は「です、ます」呼び方は「さん」を基本に、言葉には特に注意し、スピーチロック繋がらない声掛けを心がけています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記身体拘束と同様に、更に言葉使いや接遇等に関して職員間でのコミュニケーションをとり周知を図っています。特に入居者様と日々の生活からお話しする機会に起こった事柄をケーススタディにてスキルアップ、徹底防止へと取り組んでいます。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名の入居者様に成年後見人（弁護士）がおります。必要に応じて役職者が情報機器を通じて情報交換をし、これをスタッフに開示して極力全員の情報共有化が図れる様な体制構築に取り組んでいます。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約に関しては本部担当者を含め詳細にゆっくりとご説明をさせて頂いています。又、疑問点や不明点等は積極的にお聞き頂ける雰囲気作りにも心掛けています。契約改定や退居時にあたっては同様に、ご家族様等に快くご理解・納得が頂けるように努めています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほぼすべての入居者様ご家族様が面会等で来園されますが（頻度は違うが）、この時に生の声をお聞きする様に努めています。そしてご意見や苦情・要望に当たる内容をファイルを設定して記述・職員へ開示・速やかな対応と改善へのステップ体制作りに取り組んでいます。	家族の来所も多く、家族の来所時や運営推進会議時に職員から積極的に声かけを行ない、事業所での暮らしぶりを話す中から意見、要望等を聞いています。聞かれた意見、提案、苦情等は記録をとり、職員へ開示し、職員会議で議題に取り上げ、速やかな改善と対応が出来るよう、体制の構築及び運営に反映させるよう取り組んでいます。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者との面談を設けて生の意見を聞く機会を設定しました。要望等があった場合は、管理者を通して、又内容によっては本社へのテーブルに反映させる要にしています。改善を要する事項に関しては優先度にて対処し、月・年1回実施される自己評価紙面にて面談する方式を採っています。	職員会議や日常の業務の中で職員から意見・要望等があった場合は、内容によっては本社に上げ、回答を職員会議で伝えています。事業所内で取り組める意見・要望については検討し、反映に努めています。改善を要する事項に関しては優先を見極めて対処に努め、月1回実施している職員の自己評価を通して面談を行っています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本社人事担当と必要に応じた情報交換と、毎年実施される施設内での昇給・昇格や施設環境・スキルアップの水準向上などに関して対話・評価を行うようにしています。また事業所全体の講習の講師を務めるなど各自のスキルアップを支えてもいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修の定期開催（常勤/非常勤/新人）に出席受講や、日常業務内でのOJTを開催して職員育成に向けた取り組みをしています。職員と管理者との個別の面談を実施して短期の目標、実施状況、反省店などを共有し、また悩み事などを話し合っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	これまでの活動のネットワークを通して、地域包括支援センターが主催する会（福祉分野各種同業者メンバーが集合）に参加させて頂いています。地域のグループホームの会合には積極的に参加し交流を行い実際のネットワーク作りをしています。最近ではイベントの共有も行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の施設見学・面談等での最小限サマリー情報や対話等で情報収集に努めています。この際の心掛けとして、その方に合った会話等のペースでゆっくりと誠心誠意に、傾聴を基本にその方の思い等を引き出せる要に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が断腸の思いで入所させる！という心理心境は重く受け止めております。依って状況に応じてご本人様とは別テーブルでご家族様の胸の内等のお話を伺う事もあります。信頼関係を構築するに当たっては、何事も最初のイメージが肝要と心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供開始時（初期段階）は、職員の気付き等のアンテナ感度を通常よりも上げて対応する事を周知しています。またケアマネジャーとの連携をも強くして、その方の不安等の想いを軽減・払拭して頂く様に心掛けて支援対応をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の支援にての観察に於いて、その方の出来る事、好きな事等をキャッチして支援に反映させる様に努めています。やはり今日の国の基盤を築いた人生の先輩達です。自分らしく普通に暮らして頂ける様に、職員と共に笑い支え合える関係を保つ様に心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様のお話を出来るだけ傾聴のスタンスでお聞きし、良く理解出来るように努めています。ケースに因って電話・Fax・お手紙そして時にはご来園頂くこともあります。この様に不安一杯のご家族様の心境にも配慮し、情報交換等にてご本人を支えて行くように心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状ではこの設問に該当する環境にある方は少ないのが実態です。しかし数多く面会に来られるご家族様は勿論の事、ご事情で偶にお電話のみというご家族様もいますが、お便り等でご来園のお願いをしている処です。入居者様には近隣神社や音楽を通して回想法での故郷話などの支援を行っています。	これまでの本人の馴染みの場所や人間関係の把握は、日頃の会話や回想法を通して理解し、職員が共有しています。手紙を出す人、知人が訪ねてくる人、馴染の床屋に行く人などの支援をしています。友人、ご家族からの手紙や電話の取次ぎ、ご家族の来所は勿論、知人の来所があればゆっくり過ごしてもらえよう支援しています。また、事情等でなかなか来所頂けないご家族へは毎月のお便り等で来所を呼びかけています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルは5台で入居者様の様子や環境によって席を配置し本人と職員とで話し合っています。これによって生活特性を把握してご利用者様間の良好な関わり合いを見守っています。トラブル等の場合の対処、孤立しないような対処などで家族のような雰囲気作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ここ1年、実績としては2年前と13ヶ月前に退居された方がおります。13か月前退居されたご家族様とは退去時に保存していた入居者さまの写真をCD-ROMに入れて差し上げました。今後もこの様な場合には出来る範囲で継続して相談・支援等のフォローアップに努めていきます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方一人一人の、日々の言動による訴えや何を望んでいるかを観察把握しています。個人ノートや日誌、申し送りノートを活用して個別/集団の判断で、全体バランス等を考えてご理解を頂いたと感じた上での支援提供に努めています。	日々の支援の中で、利用者本人の心身の情報、本人の能力、本人からふと漏れる言葉、家族の発言、職員の気づき等を、個人記録に記入し情報共有しています。また、医療情報についても、看護記録、医師受診記録に記載し、変化があった事象に関しては、業務日誌に記入し、申し送り事項として全職員で共有しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族来園時にお若い時の入居者様の様子をしっかりと聞いています・またアセスメント票、聴き取り、日常生活でのコミュニケーションを通して気付き、情報収集をしています。それを日々の生活に反映させてご本人の生き甲斐や生活のメリハリに繋がる様にケアマネジャーとも共に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員達は入居者様のチョットした変化などの様子を常に観察して、ケアマネも含めた全員の共有情報として心身両面から把握・対応する様に努めています。また医療との連携にも大きく影響する分野と捉え、職員一同「記録に留めて報・連・相」を心掛けています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者のケアマネジャーが中心となり、御本人・ご家族のニーズを聴き取り、毎月のケア会議にて職員参加での情報でタイムリーな支援策を取り入れて作成しています。これは確認・了解のもとで実践し3カ月に1度又は必要時での見直しを行い、再度ご本人とご家族・職員の意見導入をしています。	介護計画作成については、入所時は、これまでに得られているアセスメントにより暫定計画を作り、経過観察します。その後ケアの中から得られた個人記録をもとに、ケアマネジャーが本人、家族のニーズやを盛り込んだ介護計画を作成し、カンファレンスで全職員により検討した上で実践しています。基本的には3ヶ月に1度見直しを行いますが、必要時に応じて都度見直しを行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	弊社共通の「個人日誌」をメインに、各種個人様に関する日々の情報（言動・体調等々）の事項を詳細に記録する事を義務付けています。内容によっては、現在スクラムを組んでいる【施設・家族・医療・行政・地域】への情報提供や協力要請など、重要分野と捉えて注力しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	この設問内容に対する多機能化に関して、時々生まれるニーズは稀です。しかし「ビールを飲みたい」という方にノンアルコールビールを提供したり、お刺身を食いたいという方に実施して喜んでいただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域・町内会様等の親交にて小倉神社でのお祭り等の行事、商店街散歩、保育園運動会の見学、同地域のボランティアの演奏会実施、安全面は消防署隊員との来園時対話、音楽演奏会来園などでご本人様達の心身発揮力に火を灯せる様な支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年東京の往診機関に変わりました。ホリマームクリニック旗の台が月2回の往診来園で入居者様の健康管理がなされています。ご家族の要望等は都度Drに伝え、この往診など医療情報は月1度ご家族様に提供しています。親身な医師で入居者様の性格も把握して対応してくれています。	協力医療機関から月2回の往診があり、入居者の健康管理をしています。家族の要望等は都度医師に伝え、往診の結果を含め医療情報は毎月家族に連絡しています。往診医は、24時間対応可能となっている他、毎週看護師の巡回もあり、利用者、家族の安心に繋がっています。また、歯科医、精神科医などは家族対応でお願いしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の「訪問看護リハビリステーションるな」様のNSが週1回来園されます。この際に、入居者様の日々の状態やDr往診等の情報提供により適切な受診や相談・看護等が受けられる環境体制作りに励んでいます。緊急事態等も十二分に有り得る為に、Dr同様に24h体制が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院対応は、基本ご家族様との確認を行いつつ、まずは「施設が対応体制を構築する」の考えで取り組んでいます。必要資料、病院側との連携、ご家族様・必要に応じて役所等との連携で普段からの良好な関係作りに努めています（勿論、入院中・退院時/後も同様です）。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び契約更新時に於いて、「重度化した場合の対応に関する指針」をご家族様に書面にてご説明させて頂き了承を得ています。協力医療機関との間に、ご利用者急変の場合や往診時等の対応も行う様に共有し、職員共に取り組んでおります。	入居時及び契約更新時に「重度化した場合の対応に関する指針」を家族に説明して了承を得ています。協力医療機関とは、利用者急変の場合や往診時等の対応も情報を共有しています。状況の変化に応じて医師、家族、ホーム職員で相談しながら対応する体制を整えています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアル規程が整備配置されており、全職員は最低限の応急処置・対応が出来る様に実務スキルを身につけています。様々なケースが想定されますが、設問内容に関しては日々の業務中でのOJT、必要に応じての勉強会、そして法人研修会等での自己研鑽、個々の成長へと努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合防災による定期消防機器点検、通報装置・消火器の使い方を行い、また夜間想定避難訓練で地域自治会の防災部長、直近マンション自治会長にもご協力頂き開催しています。消防士様に来園頂き助言等を頂戴した事を運営会議委員にも反映させて、危機管理対応体制の強化に努めています。	年2回総合防災訓練を実施しています。その際に消防機器点検、通報装置・消火器の取り扱い方の実演を行っています。また、消防署立会いによる夜間想定避難訓練では地域自治会の安全担当部長にも参加の協力を頂き、開催しています。地域の方には、避難した利用者の見守りをお願いしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の尊厳・プライド等に傷を付ける様な接遇（特に言葉）は絶対にタブーと強く指導しています。全職員は家庭的な雰囲気・環境を壊さない様に誠意を持って接する様に努めています。又プライバシー確保では事務所に規程を掲示し、普段からプライバシー保護法を順守する様に心掛けています。	新任研修、法人研修、事業所内研修で、倫理、接遇などの様々な研修をしています。日々の会話やケアを通して全職員が利用者の人格尊重とプライバシー遵守を理解して支援に努めています。人に聞かれたくない言葉は、本人だけに聞こえるように耳元で話をする等、人生経験豊かな利用者の自尊心を大切にされた対応に努めています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	原則我々職員は決めず、入居者様に声かけ説明にてゆっくりと納得・選択して決めて頂く様に心掛けています。この分野はとても重要で、日常生活での関わり方が大きな要素を持つと考えています。皆様が笑顔で希望を持てる表情が表出される様に（結構難しい分野ですが）精一杯努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	24時間生活の流れはある程度有るものの、起床・消灯・食事・入浴・やりたい事などに関し、ご本人の意思・気分・希望などを傾聴によって理解し柔軟性を持った支援対応をして1日を過ごして頂ける様に心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、入浴時など日々の生活タイミングでの整容支援（衣類交換、衣服の選択・口腔ケア等）に努めています。これまでの生活にきていた服を大切にしています。ご家族様のご協力ケースも稀に有りますが、職員と一緒に近隣商店街に外出散歩や、ご家族様の同意を頂き「訪問理美容」も支援実施しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	私できるわ！と言う時は（包丁で食材切り・皮むき・お米研ぎ・盛り付け・お茶入れ・食器洗い/拭き・テーブル拭き・手消毒・下膳等など）安全を確保して職員と一緒にワイワイと楽しく行っています。食事中のおしゃべりもこんな日は楽しいひと時です。毎月「おもてなし食事デイ」も行っています。	日々の暮らしの中で自分の役割を持ち、生き生きとした生活をしてもらえるように、お盆拭き、テーブル拭き、下膳など安全を確保しつつ出来る事を手伝ってもらっています。季節の行事食を楽しんで頂く他に、月に1度、職員の自慢料理を「おもてなし食事デイ」として職員が3人1組になって得意なメニューを調理し、みんなで楽しみながら食事をする機会を設けています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランス面も考慮して業者提携して提供させて頂いています。職員と一緒に食事をする事で一人一人の状態・摂取量・咀嚼状態等が観察でき、状況に応じて医療へと繋げています。水分摂取では不足がちな方に対応出来るように好物をゼリーにしたり色々と工夫しての支援に努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、義歯とか歯ブラシが持てない・持てる等個々の状態が違いますが。その方のADLなど状態に合わせて全介助、一部介助などの対応をして入居者様の口腔内清潔保持に努めています。ご本人の要望でご家族が歯科医院通院というケースも有ります。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	処方されている排泄関係の薬と照らし合わせて、その方の1日の排尿・排便状況と内容を把握して職員の情報共有化を図っています。また、その方の排泄能力やパターンに合わせて声かけ誘導や見守り・予知対応に努めています。最近ではトイレ頻回の方の様子を全員で共有して個別の対応をしています。	排泄パターン表で、個々の排泄パターンを把握し、適時声かけなどを行ない、トイレで排泄が出来るように支援しています。一人ひとりの1日の排尿・排便状況と内容を職員間で情報共有を図り、声かけ誘導や見守りで、失禁することの無いよう予防に努めています。最近では、ベッド上で介助の方をPトイレに移行出来るようになった例もあります。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物にも大きな要因が有ると思いますし、この分野は医療との情報交換で予防強化を図っています。水分摂取は手を変え品を変えてを心掛けています。また数人の便秘がちの方には特に体を動かす様な体操や散歩など、また更に乳製品等の飲食提供を無理強いしない様に心掛けて取り組んでいます。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	この設問で、曜日や時間帯に関しては施設側都合がないとはいえませんが入浴支援は最近では回数を増しています。健康面清潔保持や心身の癒しに繋がる重要分野と捉えており、ご満足頂ける様に、皆様には朝から楽しんで頂き、その方に合った関わりで日々支援に努めています。	週2回以上は入浴出来るように支援しています。健康面清潔保持や心身の癒しに繋がる重要な役割を担っていると考えていますが、入浴拒否の強い方には、時間をずらしてから再度の声掛けや、入浴日を替える等の工夫をしながら入浴してもらうよう支援しています。季節に合わせた桜湯、菖蒲湯、ゆず湯及び入浴剤を利用して季節感や温泉気分を感じれるように工夫しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時等からのアセスメント情報や日常生活に於いて、日中、夜間帯の睡眠・休息習慣等の行動を把握して対応しています。又、天気の良い日等は布団干しや定期的なリネン交換や洗濯、安眠に繋がる日中の軽い体操等で環境を整えています。季節に応じた空調関係にも配慮に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が服薬される処方された薬は、薬局様のご支援で誤薬等のミスが無いように事務所管理を徹底しています。服薬に関しても提供された薬説明書にて効能、副作用等に関し薬局さまとの連携で職員は努めています。急変等の変化に対してもDrなど医療関係との連携で安心安全確保を心掛けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の好きな事や出来る事分野を見出し、日常生活でのレクリエーションなど場面場面において、役割を持って頂いたりして生き甲斐、張り合いを持って頂ける様に取り組んでいます。おしゃべり、厨房でのお手伝い、歌の時間での楽しそうな表情など気分転換で笑顔を引き出す接遇に努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間計画での外出支援は可能な限り行っています。近隣の散歩、町内商店街への買い物、自治会行事への参加などに努めています。ご家族様と一緒に食事外出も時々あります。この支援分野は施設状況から不満足・未達成に有ると反省し、これからの改善課題とします。	日常的な散歩では近隣の小倉神社、花屋・魚屋などの決まったコースに行くことが多いですが、外気浴では庭に出て保育園の園児の明るい声と共に、みかん、柿などの木々の自然の移り変わりを見て楽しんでいます。町内商店街への買い物、自治会行事への参加をします。ご家族と一緒に食事外出に行っている方もいます。今後は、ドライブで遠出の機会を作る予定です。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、金銭管理はご家族様等の了解を頂いて施設管理をしています。数人の限られた入居者様ですが、希望される物品の買い物に職員が同行して、お金を渡してご本人の手からお金を支払って頂く様にしています。その時の笑顔が何ともいえず職員の共通支援姿勢として心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	このケースは限られた方になりますが、ご家族様から電話があった場合、要件によってはお部屋か事務所でお話しして頂いています（プライバシーへの配慮）。お手紙等の交信支援は、ご本人の希望する形で対応する様に心掛けています（一緒に散歩がてらポスト投函等）。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関内外の四季折々のお花、建物サイドの可愛い庭園、リビング等の共用空間への家庭的な雰囲気づくりに努めています（居室へも配慮）。書道会で書いた文字の展示会、四季行事等で生活の写真の見せ合いなども行って、居心地の良い環境作りを目指して支援を心掛けています。	季節感があるもの、話題になるものを掲示するように心がけています。玄関内外には四季折々の花があり、庭園からも季節を感じる事が出来ます。リビングには、季節に合わせた装飾や、行事作品が飾られ、窓越しには近隣の保育園児の声が聞こえ、利用者のご家族の話題作りにもなっています。また、習字で書いた文字の展示、写真等等共用空間の家庭的な雰囲気作りが温かさを深めています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんと一緒に過ごせるリビングがこの共用空間とまずは考えて、時には座る本人の椅子の場所を変えたり、壁面に絵画を飾ったり、歌ったり、ゲームをしたり会話・・・と入居者様同士、職員も入ってリラックスできる居場所作りに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、以前から使い慣れた品々を御持ちになられ、その方らしさが表現された居室になっていると感じます。お誕生日プレゼント色紙や、四季折々行事等で撮った写真など、ご本人が満足して頂ける様に対話にて支援させていただきます。	居室には、以前から使い慣れた品々を持ち込んでもらい、その方らしい表現がされた居室になっています。各居室には利用者の似顔絵・コメント入りの色紙が飾られ、その他、四季折々行事等で撮った個人の写真などが飾られています。居室内のレイアウトは利用者のご家族で決めてもらい、居心地良く過ごせる空間になっています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のADL等に適した食事やリラックス場所・席は出来るだけ意思を尊重して自立で移動できる動線を臨機応変に確保しています。安全歩行が出来る様に、廊下など随所に手すりが設置されています。また転倒・転落防止等の安心安全確保の活動にも努めています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

第2バナナ園

作成日

平成27年12月8日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出支援として近隣の買い物や散歩の他に、イベントや飲食店などへの外出。	年間計画を立て入居者様をより楽しんでいただける外出支援を行っている。入居者様は外出を楽しみにして生活に希望を持っている。	職員の勤務状況の改善により、年間計画を作る→外出計画をする→内容、頻度、実施目的をスタッフ全体で共有する→PDCAをおこないルーティン化していく。	年間計画及び永年実施
2	48	入居者様の購入したいものや実施したいことへのアプローチ。	やっておきたいことや気になっていることを普段の会話から探り出し誕生日などの特別な日やイベント時に実施して「心からの満足」を演出する。	実施する内容を実施日の3ヶ月程度前には取り組みを開始して具体的な方策をスタッフで共有。シフトを共有しPDCAを確実に行う。	年間計画及び永年実施

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。